

第13回全国高等学校囲碁選抜大会の開催に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

私は、本大会の実行委員長を務めます、大阪府高等学校芸術文化連盟囲碁部会長の松本と申します。

本大会は、高等学校文化連盟全国囲碁専門部会、全国高等学校囲碁連盟、読売新聞社、一般財団法人関西棋院の主催で、毎年この時期に開催されています。

まずは、この大会のために会場を提供していただきました大阪商業大学の谷岡学長様をはじめ、大会のためにご尽力いただきました関係団体の皆様に深く感謝申し上げます。そしてお休みの中、本大会の運営、子どもたちの引率、並びに平素より囲碁の普及とご指導にご尽力いただいております役員及び、各校顧問の先生方に改めてお礼申し上げますとともに、この2日間の円滑な大会の進行にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

選手の皆さん、顧問の先生方、ようこそ大阪へ。心より歓迎申し上げます。この大会は、囲碁の高校生全国大会ですが、会場の大阪商業大学のある大阪府東大阪市では、他にも高校生の全国大会が行われているのですが、何の競技かご存知でしょうか。そうです、ラグビーですね。ここから少し東のところに、花園ラグビー場があり、毎年正月に、全国高等学校ラグビーフットボール大会が開催されています。ラグビーが、肉体と肉体のぶつかり合いならば、囲碁は、頭脳と頭脳のぶつかり合いですね。今日も静かな、でも熱い戦いを期待しています。

私が言うまでもなく、囲碁は、2500年以上も前に古代中国で生まれたとされています。日本には、飛鳥時代に伝わり、古代中世の文学作品にも、囲碁が数多く登場しています。皆さんもよく知っている「源氏物語」や「枕草子」にも、囲碁が登場しています。戦国時代に、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた僧日海は、本因坊算砂（さんさ）として、本因坊家の開祖となりました。そして昨日、棋聖位を防衛された、井山裕太（ゆうた）五冠は、26世本因坊文裕（もんゆう）を名乗っておられます。

私は、漫画やアニメが大好きです。大阪で開催される大会や、私の勤務している府立高校での挨拶では、必ず漫画やアニメのセリフが出てきます。囲碁の漫画といえば、何と言っても「ヒカルの碁」。そこで「ヒカルの碁」第140局の一場面を紹介しましょう。進藤ヒカルのセリフ。「俺、碁を止めない。ずっとこの道を歩いていく！」それを聞いた塔矢アキラ。「追ってこい！」そして、その二人を見ていた桑原本因坊。「碁を打つには二人いるんじゃないよ。才能が等しくたけた二人がいて、初めて神の一手に近づくことができる。」

皆さんも、綿々と続く囲碁の歴史の継承者です。しかも、各地区から選抜された精鋭ぞろい。皆さんの対局から、きっと名局が生まれ、「神の一手」に近づくことができるでしょう。勝って驕らず、負けて腐らず。「私と打ってくれてありがとう」との、相手に対する感謝の気持ちも忘れずに。本大会での皆さんの健闘を祈り、開会のごあいさつといたします。がんばってください。